

平成 22 年度第 1 回東京大学総長賞
受賞者の概要（当日パンフレット原稿より）

【三井淳平（大学院工学系研究科修士課程 1 年）】

三井氏は 2006 年に東大レゴ部を創設し、レゴブロックを素材とした創意工夫に富んだ作品群を制作すると共に、関連する課外活動に積極的に取り組んでいる。個人としても、高度な技術力と発想力が国内外で評判となり、各種のコンテスト等で受賞し、海外のイベントで招待講演を行うなど、その活躍の舞台は国内にとどまらない。また、これらの課外活動を通じて、世界遺産の保護や子どもの権利保護などのチャリティーイベントにも積極的に参加している。ちなみに、同氏らが中心となって制作した「レゴタワー」は「レゴブロックで作る世界一高い塔」としてギネス世界記録にも正式認定され、また、2010 年には、その年に世界で発表された個人制作レゴ作品の中で最も優れた作品に与えられる MOC of the year を受賞した。さらに、母校の中学校においても「レゴブロックによる立体表現」をテーマにした講演を毎年行うなど、教育活動にも熱心である。これらの長期にわたる国内外での一連の活動が高く評価された。

【長山大介（大学院新領域創成科学研究科博士課程 2 年）】

長山氏は、本学がイニシアティブをとって発足した G8 大学サミットの主要行事である G8 Student Summit 2010 に本学の代表として参加し、その最終提言書の起草委員会のメンバーとして活躍した。2006 年に台湾で開催された東アジア研究型大学協会の学生フォーラムに本学から派遣され、最も貢献度が高い学生に送られる「Mr. AEARU」を受賞した。この活動がきっかけとなって、同氏は自身が国際交流に参加するだけでなく、広く東大生の国際交流活動を進めるべきであるとの想いを抱き、2007 年に東京大学学生国際交流機構（UT-IRIS: www.ut-iris.org）を創設し、国際交流情報や体験談の発信、新規国際交流プログラムの企画立案、本学主催国際交流企画（東大イェールイチシアチブ、IARU、清華大ウィークなど）の支援等を行ってきた。このように自身が国際会議で「タフな東大生」を体現するだけでなく、「東大生の国際化」を推進する活動も積極的に行っていることが高く評価された。

【東京大学フォーミュラファクトリー】

東京大学フォーミュラファクトリー（UTFF）は（社）自動車技術会主催の「全日本学生フォーミュラ大会」に第1回から参加し、昨年度の第7回大会において総合優勝を果たした。この大会はフォーミュラレーシングカーの企画・設計・製作・試験・改良という一連の活動を通じてものづくり産業を支える人材の育成を目的としている。UTFFは、世界にも例を見ない電子制御無段変速機を搭載した自動変速車両を設計・製作し、総合優勝した。多くの大会参加者に「流石東大」と言われ、本学の名誉を大いに高めた。また、UTFFは理系学生だけでものづくりをするだけでなく、文系学生も加わったNPO法人「自動車技術を学ぶ会」を設立し、講習会や展示会、工場見学等を主催することによって広く学内外にもものづくりへの関心を高めることに貢献した。このように自チームの運営だけでなく、自動車技術会主催の各種イベントへの協力、学生主体の合同走行会等の主体的な企画・運営等、学生フォーミュラ大会参加チーム全体のレベルを向上させた貢献が高く評価された。